

令和元年6月20日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02285

研究課題名(和文) 古典籍をめぐる幕末明治期における人的交流に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic research on human exchanges in the late Edo and Meiji periods concerning Pre-modern Japanese books

研究代表者

山本 和明 (YAMAMOTO, kazuaki)

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：90249433

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：今日伝わる古典籍に関して、どのような形で伝わってきたかという点については従来昭和初年代以降しか明らかになってこなかった。鹿田松雲堂という明治時代以降、古典籍を商ってきた書店に伝来する日誌や書簡などの資料の翻刻や目録化するとともに、松雲堂に集う人々の交流の実態を書簡などから解明し、当時行われていた古典籍に関わる研究会の運営方法や蔵書家の蔵書形成の実状を明らかにした。また、明治期以来の和歌の研究会のあり方を比較対象として位置づけることで、その独自性を明確にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、今日伝わる古典籍の旧蔵者のことが解明されたとともに、古書交換会などの実態が明らかとなった。購入者と古典籍商を巡る情報交換などのサロンの形成や、日誌などから伺える当時の世相や関東大震災時における動向なども判明した。特に新聞等で十分に伝えられていない地震や水害などの情報もあった。書簡類には岸田吟香や富岡鉄斎などからのものも多く含まれており、文化史的に見た古書肆の果たした意義を検証しうる基礎的調査や翻刻、目録の整備はほぼ完了した。比較対象とした邦光社については従来知られていない資料群からいわゆる旧派歌学の解明に関わる基礎的研究となり得た。

研究成果の概要(英文)：When trying to identify the former owner of Pre-modern Japanese books, it is common to find clues such as book seals. There are few materials that describe the former owners of the Pre-modern Japanese books. In this study, we focused on diaries and letters that had been handed down in an antiquarian bookstore called "Shikata Shoundo" which was founded in the Meiji period, and organized the materials as a list (catalogue). From diaries and letters, we clarified the actual situation of the interaction of the people who gathered in "Shikata Shoundo" and clarified the management method of the study group on Pre-modern Japanese books. By comparing the management method of the study group of WAKA since the Meiji period, the uniqueness of the study group of Pre-modern Japanese books was clarified.

研究分野：人文学

キーワード：鹿田松雲堂 人的交流 古書交換会 書田会 三代余霞 邦光社 遠藤千胤

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

古典籍を巡る研究において、その伝来をたどることは、重要な意味をもつ。しかし古典籍がいかなる人々の手をへて今日残存しているかは書物に捺された蔵書印などの情報により確認されるのが常であったが、古典籍を流通させた古書肆の存在、蔵書家の動向などは無視できない。古典籍が如何に見いだされ、如何に蔵書家のもとへと至ったのか。こうした研究については水谷不倒『明治大正古書価之研究』(昭和八年)以来、ほとんど進展してこなかった。昭和以降の動向については反町茂雄『一古書肆の思い出』があるものの、それは自身取引した昭和初年次以降の話題にすぎないのである。そうしたなかで平成十七年度大阪府中之島図書館展示「近代大阪の耀き 古書肆・鹿田松雲堂と大阪の雅人文人たち」により、明治期大正期に古典籍を幅広くあつかった鹿田松雲堂関係資料が今日なお個人蔵で大切に保管されていることを知り、知遇を得るに至った。鹿田松雲堂は、単なる古書肆としてだけではなく、幸田成友などとともに大阪市史編纂に関わる資料収集にも一翼を担い、多くの雅人文人との交流を果たし、古書交換会や古典籍を巡る研究をしたことでも知られる。水谷不倒が記したのも、鹿田松雲堂の月報によるところが大きく、その資料はまごう事なき基礎資料といえるものである。所在の明らかになった鹿田松雲堂主人の日誌ならびに手元に残した書簡類、幹事等で関わった古書研究会の記録簿等を研究資料に加え、書物の流転の様相や人的交流の様相について、古書肆伝来の根源的資料をもとに研究を進めることは、水谷不倒以前の時代の古典籍の動向や当時の研究の実態を知ることが可能となるだろう。従来知られてこなかった幕末から明治大正期における古典籍を巡る書肆と蔵書家たちの動向を明らかに出来、蔵書形成史、図書館史にも貢献できると目される。またこうした会の運営等の特質を明らかにするため、明治期における研究会運営の別の例を押さえることで、明治大正知識人たちの学問・研究への取り組み方の解明も可能であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、明治大正昭和と継続し目録を発行し続けた古書肆鹿田松雲堂を研究の中心に据え、古書肆開店以前の幕末期からの人的交流、すなわち蔵書家たちとの書物をめぐるやりとりや古典籍流転の様相を日誌・書簡・発行目録・手控え書類といった基礎資料に基づき考察するものであり、水谷不倒・反町茂雄等による従来成果をも検証した上で、期間内には次の2点を中心に行う。

(1) 鹿田三代余霞日記の翻刻。

(2) 鹿田の目録「書籍月報」など、関連資料の調査収集を踏まえ、データ整理する。そのデータをもとに、鹿田松雲堂サロンに集う古典籍をめぐる人々の交流のありようや、従来未開拓な明治から大正期に数多くおこなわれた蔵書家同士の古典籍を巡る研究会の実態を明らかにし、論証することを行う。

そのことでこうしたサロンが明治期以来の文学研究に果たしていった役割を考えることが主な目的である。研究にあたり、明治期における研究会運営などの方法にも注目していく。



3. 研究の方法

研究の方法については(1)基盤資料の整理とデータ化、(2)撮影、(3)他の資料群との比較検証、(4)論文作成というオーソドックスな方法をとった。

(1)基盤資料の整理とデータ化：科研採択後、鹿田松雲堂旧蔵資料に関しては、個人所蔵から公的機関への寄贈にともなう移管がおこなわれることが決定した。個人・公的機関との調整により、当方で作成する基盤資料のデータを仮受入目録とすることとなり、公的機関内への移管資料をそのまま箱ごとに悉皆調査を行った。研究代表者が所属を東京の国文学研究資料館にうつったこともあって、研究開始年度に研究分担者を新たに加えて、連絡を密に取り、行うこととなった。

(2)撮影：データ整理と併行して当研究期間内に翻刻などを予定している資料の撮影を、デジタルカメラを用いて実施する。具体的には鹿田三代余霞による「日誌」一括、鹿田松雲堂を中心におこなわれた文人や愛書家たちとの古書交換会関係資料にあたる「書田会記録」「保古会関連資料(仮)」である。日誌に関しては撮影後、その翻刻作業を開始するものである。

(3)他の資料群との比較検証：「書田会記録」所収記事に、初見段階で古書交換会などの場での人的交流の様子をうかがい知る内容を確認するとともに、それを裏付ける実際に交換会で作成された「標本集」の調査や、鹿田松雲堂の販売「月報」を確認することで、時期等の特定や値段などの検証を実施。古典をめぐる明治大正期の人的交流の様相については、鹿田松雲堂など古書肆を中心とした会でのものと同様に、歌などをめぐる結社での人的交流などでも確認する。特に古書交換会関連資料には案内文や記録簿などが残存しており、会の運営状況が確認できるため、時代や研究対象の相違による方法の違いがあるのかを考えるため、明治大正と継続した和歌結社「邦光社」の関連資料についても調査をし、運営方法などの違いについて検討した。

(4)上記の項目についてそれぞれ論文を発表ないし、原稿作成を執り行い、基礎的研究としての公開を執り行う。なお、公的機関に仮受入目録を渡し、公開に至った段階で、シンポジウ

ム等を開催することとなっている。

4. 研究成果

鹿田松雲堂関係資料（具体的には鹿田三代余霞による「日誌」や、文人や愛書家たちとの古書交換会関係資料）など、研究に必要とする基盤資料の撮影はほぼ完了した。研究後半にまとまって出てきた書簡類についても、手写しではあるが撮影を終えており、今後の翻刻などにも支障はない。特に一括で括られていた書簡類のなかには岸田吟香や富岡鉄斎などの書簡も見受けられ、鹿田松雲堂に集う蔵書・愛書家たちの広がりを確認することができた。

鹿田三代余霞による日誌類についても翻刻を完了し、個人名など支障がないかの確認を行っている。相応の分量になったため、成果を単行本として刊行することを考えており、現在出版社と相談をし、外部資金の獲得などの調整を進めている。

人的交流に関する研究論文については、その成果の一部を単著のなかに掲載し研究成果の公表を果たした。

申請時と異なり、個人所蔵から公的機関へと鹿田松雲堂関連旧蔵資料の移管が行われたが、その受け入れにあたって目録（リスト）化を実施することなどが当初の成果公開という点で想定外の展開となったものの、当初目標とした相互の情報から浮かび上がる古典籍を巡る人的交流の諸相を明らかにする基盤整備にあたるものと位置づけることができる。かつ今後、本研究の成果を踏まえ、公的機関で公開がなされる道筋をつけたことは、死蔵ではなく公開に至るものであり、その成果のオープンデータ化ということもできる。平成

29年度末段階で全ての函を開け、30年度末でデータ採録をほぼ終了しえたが、その間、紙綴りで書簡や書類等が綴られたものなどを封書に入れるなどの整理をし、葉書等1点と数えると総点数1400点を超えるデータとなった

No.	A 番号	B 手紙 集	C 封 筒	D 指 標	E 読み 方	F 書 名	G (1) 巻名		H 大正 15(1)	I 大正 15(2)	J 昭和 15	K (2) 巻 名	L (2) 巻 名	M (3) 手 紙	N (4) 葉 書	O (5) 葉 書	P (6) 葉 書	Q (7) 葉 書	R (8) 葉 書
							(1) 巻名	(2) 巻名											
1	001	1	1	1	なし	要目日誌五号			19.4	13.5	1								
2	001	2	1	1	なし	要目日誌六号			19.4	13.5	1								
3	002	1	1	1	なし	往文五号七号			19.4	13.5	1								
4	003	1	1	1	なし	往文五号七号			23.5	15.9	1								
5	004	1	1	1	なし	往文五号七号			23.5	15.9	1								
6	005	1	1	1	かえり	書物通			8.0	17.3	1								
7	006	1	1	1	しよん	書目録			8.2	17.8	1								
8	007	1	1	1	あらい	長所氏蔵書目録			15.6	10.8	1								
9	008	1	1	1	しよん	古書特報			17.3	24.0	1								
10	009	1	1	1	しよん	古書特報			17.3	24.0	1								
11	009	1	1	1	しよん	古書特報			11.4	7.8	1								

（エクセルデータとして作成）。データの最終点検、校正が未了ではあるものの一定の成果を得ることができ、ほぼ順調に目標を達成しえた。

比較対象とした遠藤千胤旧蔵邦光社関係資料については、会の運営資料等を論文にまとめ公開し、明治から昭和にかけて50年近く活動した会誌の存在を明らかにした。このことは和歌関係の辞典類にも採録されておらず、一定の評価を得ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

山本和明、遠藤千胤旧蔵歌学関連資料瞥見、国文学研究資料館紀要文学研究篇、査読有、45巻、2019、203-238

山本和明、書物流通の幕末・明治、書物学、査読無、9巻、2016、56-62

山本和明、邦光社黎明期に関する基礎的研究、国文学研究資料館紀要文学研究篇、査読有、42巻、2016、29-59

山本和明、古典籍を標本する、文部科学省教育通信、査読無、375号、2015、2

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

山本和明、勉誠出版、近世戯作の近代、2019、416

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：新井 由美

ローマ字氏名：(ARAI, yumi)

所属研究機関名：大阪大学

部局名：文学研究科

職名：招へい研究員

研究者番号(8桁)：40756722

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：飯倉 洋一

ローマ字氏名：(IIKURA, youichi)

研究協力者氏名：勢田 道生

ローマ字氏名：(SETA, michio)

研究協力者氏名：山本 嘉孝

ローマ字氏名：(YAMAMOTO, yoshitaka)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。